



上:「化石の学校」会場は大盛況 あっい!!



題字「ほねほねボード」前田露団員 作

ホネホネ団通信 22号 2014年5月24日発行  
 なにわホネホネ団事務局  
 〒546-0034  
 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館  
 TEL: 06-6697-6221 FAX: 06-6697-6225  
 wadat@mus-nh.city.osaka.jp

# 第11回東北遠征団 仙台&南三陸町遠征



2月14日前夜祭



先週も記録的な大雪で関東方面の交通網はガタガタ。2週連続はないだろう、晴れ女記録更新してやる。と意気込んでいたものの、週末が近くなればなるほど荒れ模様の予報。ついに木曜には団長から中止・延期かもしれないメール。しかし楽しみにしている子どもたちのために決行することになった。が相次ぐ予定の変更。私の出発もホテルの予約変更の電話から始まった。14日のラッキーフライデーはホワイトバレンタイン♪と浮かれている場合ではなく、大阪も雪の中、出発。昼のJALは飛んでくれた。今から大変なはずだけど、雪景色の大阪&仙台にうきうき♪でもピーチは早くから欠航表明。ANAも怪しい。仙台一番乗りの私は、まだ降っていないし、気温も大阪の早朝くらいだし。とホテルチェックイン後、散策に出かけた。団長、トリちゃん、乾さんはものしりブック英語版の折りを新幹線の中で内職してたのに。瑞鳳殿周辺まで歩いて行って、雪(後で聞いたら先週の残雪)と持ち前の方向音痴で入館時間間に合わず入れず。(そもそもホテルから歩くには少し遠かった。)ホテル出る前に玉置さんから「メデアアテークがおすすめ」とメールをもらっていたのでそっちに行ってみる。これも歩いて行くには少し遠いが、夜の宴会までには時間はたっぷりあるし、おしゃべりなカフェとか変な雑貨屋があるかもしれない。道中にはこれといった店はなかったがメデア

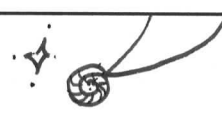
アテークにはどちらもあった。カフェでまったり。雑貨屋で玉虫塗りをガン見。仙台は帰りに寄るし、研究・解析用に買い物しよ。と思っていたけど結局忘れていたことに今気付いた。上階の図書館でまたまったり。ガラス張りの建物の中から見ると仙台の雪景色にうっとり。そう、仙台でも夕方から雪が降りはじめた。



東北大生がセットしてくれた交流会も15日から14日に変更になった。しかも団長の到着に合わせて21時から。一旦ホテルに戻って天気予報をチェック。やっぱり雪かあ。交流会の店には21時前に到着。しかしまだ誰も来ていない。予約は誰の名前??団長に電話しても出ないので、とりあえず21時からの予約席に上がりこむ。かなり不安。次に到着したのは東北大の方々。面識なしで(人見知りなので)少し戸惑うが、佐々木先生が穏やかな人でよかった。団長たちも到着。よかった合流できた!メンバーがそろったところで、MTもそこそこに団長、熱く語ってました。私の漆アンモナイト(自己紹介代わりに便利)も受けが良かった。東北大でも大学から帰るのに雪かきと渋滞で大変だったそうです。仙台って普段はここまで降らない・積もらないんですね。やっぱり尋常じゃない大雪。



お開きになってからも盛り上がったホネ団メンバーは2次会へ。適当に見つけたスポーツバーで五輪の男子フィギュアスケートを観戦しながらまた盛り上がり、筆舌に尽くしがた



い悪事(?)を働きつつ解散。いきなり午前様でした。

### 2月15日八木山動物園



朝起きるとまだ胃が少し重かったが、朝食付きにしたのでビュッフェへ。窓から外を見るとやっぱ降っている。このまま外に出たくない、いや、雪を眺めていたが朝食もそこそこチェックアウト。仙台駅では羽生結弓・金メダルの号外を配っていた。私たちが解散した後に取ったのね、レンタカーは団長の運転で出発。まだまだ降ってるし、雪道はやっぱ怖い。順調に行けそうだったが上り坂でタイヤが埋まる。後続の車も同じように埋まって身動きができなくなってしまう。後ろの車が脱出するのを待つ。意外に交通量の多い所で、対向も多かった。動物園にレスキュー依頼の電話をするが、なかなか来そうにない。後ろの車がいぶん下がってからもみんなで車を押しみることに。うんともすんとも(泣)そこに作業着のお兄さん2人がやってきて、チェーンを巻いてくれて脱出できた。てっきり動物園の人だと思っていたら通りすがりの東条テレコムの人だった。ありがたい。(動物園の人だと思っていたので「二駆つすか?」の質問に変な回答をしたり→トリちゃんのfacebook参照、素手だったので「軍手ありますよ!」と『ホネ』と書いた軍手を差し出したり、親切にもらっただけに後ですごく恥ずかしかった。)



動物園に到着しても駐車場はものすごい積雪で、ビジターセンターの裏口に車止めて搬入。お客さん、来そうにないなあ。ビジターセンターには剥製もたくさんあったけど保存状態があまり良くなってゴリラがはげはげになっていたり、鳥にたくさん虫が付いていた。動物園の人もどうしたらいいかわからないそうで、また剥製クリーニングに来たいね〜とのんきにしゃべっていた。WS予約していた12組のうち6組からキャンセルの電話があったそうで(坂が登れませんか?って家を出て来ようとしてくれたんだ!)いよいよいよいよ開店休業モード。設置をした後はホテルのビュッフェで取ってきた焼きそばやワッフル(何か取ってくるように団長からタッパを押し付けられていた。)で腹ごしらえ。ものしりブック折りの内職の続きをしたり動物園の展示品の写真を撮ったり、動物園の入園者は1組だけ(WSに来る人かどうかは不明)との連絡も入って、窓の外の雪を見るとますます休業モード。



しかし!WS開始時間とともに1組(母&娘2人)のお客さんが!すぐく楽しみにして来てくれたみたい。もう1組(母&息子)お客さんが来て、動物園の職員さんや売店の店員さんも来て、WS会場は意外に盛況!!

団長のホネのお話から始まり、私もホネ団にいながら今更へえ〜と思うような話が聞けておもしろかった。実際に標本を手にとってもらうとみんなおっかなびっくり、どうしても触りたくないって人も中にはいて(笑)で

も興味津々。いつの間にか来たおじさん(たぶん一般人)や最初から参加のお母さんは骨格標本の写真撮りまくっていた。プラ板工作になるとホネカードどれにしようか迷う人続出。動物園の人たちも楽しく工作。私も小学生のとき以来のプラ板にわくわく♪お客さんいらないと思っていたのにトースターは2台ともフル稼働となり、みんな名残惜しそうに帰っていった。動物園職員さんにも好評で、また動物園でもアレンジしてやりたいとおっしゃっていた。この日に来れなかった人も後で資料取りに来るそうで、ホネカードとプラ板をセットにして職員さんに渡した。プラ板なんて小学生のときに飽きるほどやったのにホントに受けるのかなあと失礼ながら思っていたが、今でも不滅なんですね。そんな感慨に浸る暇もなく撤収。雪で道路状況が読めないで早めに仙台を出なければ。撤収作業の合い間にちゃっかり売店でお土産を購入させてもらった。(そうさんペーパーを買った。開けるときに思わず匂いをかいだけども無臭...そりゃそうですね(笑))

### 八木山動物園脱出



荷物を積み込むときにはもう車は雪に埋もれていた。職員さんにも手伝ってもらって雪かきしながら脱出を試みるがタイヤが埋まり

職員さんも増員(動物園内の除雪も大変だったのに...)、除雪機も出動して悪戦苦闘。団長と乾さんは職員さんに混じってガンガン雪かき。トリちゃんは夕方合流組への連絡。

でも私は戦力外で申し訳なかったです:スコップもなく、要領も悪くて、力仕事向いてないのを痛感。チェーンが外れたり、車出さずだけで小一時間はかかっただろう。みんな雪だるまになりながら動物園を後にした。道路も渋滞していて、車の中でおやつ食べながら仙台脱出の作戦会議。仙台駅は遠かった...

### 南三陸へ

駅のレンタカー屋さんで無事藤田さんと合流。八木山に行っていたらいいのになぜか合流できなかった玉置さんともここで合流できた。八木山の荷物を博物館に送り返し、八木山に行った車は全然走らないので(二駆ですから!)キャンセルして、車2台で南三陸に向かう。(もともとは3台の予定だった。)1台目は藤田さん運転で玉置さん、乾さん、トリちゃん、私の5人で即出発。団長は後から新幹線で来る小田さんと阿久津さんと合流してから出発することに。昨日も遅かったし、雪かきで疲れているし...と車中みんなで団長を心配していたが、団長からすれば私たちのほうが心配だったよう... (苦笑)



私たちは18時頃出発になったが、まだまだ雪は降っていて、積雪で高速道路なのに低速走行。奥松島辺りで雨に変わりその後は仙台の雪がうそのように順調に21時頃到着。途中津波被害のあったところを通ったけれど既に更地になっていて雪も積もっているし、夜だし、あまり実感が湧かなかった。震災前は



たくさん家が建っていたそうだ。骨組みだけになった防災対策庁舎は今も伝え続けていたが、それより「平成の森」宿舍のすぐ傍が仮設住宅で、こちらの方が胸が痛かった。宿舍では先に着いていた小川さんと雅子さんがおにぎり、味噌汁を用意して待っていてくれた。途中寄ったコンビニで買ったご飯やおやつも食べる。団長は20時頃仙台台出発で23時頃到着。もちろん酒宴が開かれていたようだが私は妙に寒くて、昼も雪だるまになったし、ここで風邪引いたら何のために来たのかわからん…と早々に寝てしまった。朝起きたら私の隣は阿久津さんのはずだったのに団長が寝ていた。そういえば夜中「このふとんあったかいよ」と団長が叫んでいたなあ。阿久津さんがトイレに行ったときに団長が温まったふとんを横取りしたらしい(笑)

## 2月16日いよいよ「化石の学校」



朝ごはんを食べているときは雪がちらほら。しかし出発する頃には晴れ女・団長&私の本領発揮。出発してから自然史センターから「開催されますか？」とMLに。センターに問い合わせの電話があったらしい。確かに向こうではこちらの状況はわからない。晴れているとは思えないだろう。9時に会場の南三陸ポータルセンターに到着。建物には木がたくさん使われていていい感じ。きれいな雪が積もっていてテンションが一気に上がり、雪合戦が始まった。(いい大人なのに…雪珍しくて♪笑) ニジ君とも再会。岩手大生が雪

で来れなくなった。MT後に設営開始。私はモノテイス担当だったので阿久津さんにやり方を聞きながらブーイングの設営をやっていた。しかし、スタッフ練りの関係でその後キラキラしおりの担当に。しおりは設営もしていないから全然把握できてない。こちらのスタッフ足りなさそうだし、小田さん怖そうだし、WSの担当を軽く拒否してみたが団長に一蹴された。11時過ぎにはもうお客さんが外に並んでいる!! バタバタと自己紹介しながら昼食。玉置さんにしおりのやり方をざっくり聞いて、ハトメの練習をしようとしていたところに12時開場となった。お客さんが押し寄せてきて焦る。東北大の女の子と2人で必死にハトメと格闘。絵を描く机には誰も付いていないけどいいのかわかるといながらお客さんをさばくのには必死でどうすることもできない。玉置さんの紙芝居を聞いてマスターするよう言われていたが、聞く余裕もなし。「しおりをやりたくて来た。」というお客さんもいたが、こんなに余裕のない対応で大丈夫だったのか?会場はすごい人と熱気。「ここはいつぱいなので後で来てください」と言ってみたものの、どこのブーイングも既に満員。WSの時間も迫ってきてさらに焦る。まだまだお客さんはいっぱいだったが東北大生に後を託し、WS開始の10分前くらいにブーイングを抜けた。小田さんに進行時の注意などを説明してもらっている間に団長が出席を取り始めた。WS会場も満席。見守る保護者でさらにぎゅうぎゅう。後で聞いたら参加者は33名で定員オーバー。子ども優先であきらめた人もかなりい

たらしい。予備で持って行った資料も希望者(大人)に配ったら飛ぶようになくなった。保護者用に椅子を出そうとしたが、狭くて置き場所もない。プロジェクターが見やすいように照明を消したが外が明るくてあまり変わらない。(今思えばめっちゃ暗れていた。建物も外光がよく入る構造)が、それより一旦外に出ると人をかき分けて再び中に入るのが大変。WSが始まり、小田さんの説明に団長が合の手を入れると子どもにもわかりやすかった。実際に骨格図のトレースが始まると私にも少し余裕が出てきた。「仕上りの良し悪しは最初のトレースの出来で決まる」という小田さんの脅しでかなりびびりながら精密にしようとして疲れてしまう子、すいすい描いてしまう子、力いっぱい手が真っ黒になる子、と様々。私も少しだけやらせてもらったが、参加者はみんな真剣すぎてすぐに鉛筆が丸くなり、鉛筆削り係をやるハメに。鉛筆の丸まり具合とトレースの進行をチェックしながら各テーブルをまわる。上顎と下顎の境界線や眼窩などの骨格図の内側部分を描いていない子が多くて「ここも描いてね」と一人一人に声をかける。小田さんも全体にもう一度説明していた。トレースが一段落したら眼、鼻、耳の位置をレクチャーしてもらっていよいよ肉付け。せっかくなので描いた上に描くの?という感じで最初は子どもたちも戸惑っていたが「好きな色の恐竜にしたいよ。何色にする?」と言うと真剣に色鉛筆を選んでいった。そしてすぐに「鉛筆削ってください」の嵐(笑)途中で15時から講演の中島先生が到着。質問コーナーもあったがみんな作業に没頭してあまり関心が向かなかった。ちよつとタイムシグが悪かった。



WS終了近くなると力作ばかり。できた作品をうれしそうに見せる子や、恐竜の話をしてくれる子もいたが、私は門外漢(汗)何となくの知識で切り抜けた。(話があまりマニアックにならなくてよかった。それとも見抜かれていたのか?知らない人だから恥ずかしかったんだろうということにしておく。)参加者は私も恐竜の先生だと思っていたらしい私が描くのはほとんど植物(ホネ団に入ってから動物も増えたけど)。プロでもないんです。ごめんなさい。慣れない作業で疲れたのか終了時間になるとすぐに撤収する子が多かったがみんな満足そう。1テーブルに1人くらいは粘って描いている子がいて、小田さんと一緒に写真を撮ってもらっていた。1時間のWSとは思えない充実ぶりだった。東北大チームと一緒にWSの後片付けと講演の準備をして戻ると、東北大生が一人でブーイングを盛り上げていた。お客さんへの説明も板に付いている。恐るべしOJT。そういえば私もホネサミのときに阿久津金魚ブーイングで鍛えられたものだ。お客さんもだいぶ少なくなってきたので魚童缶をやらせてもらった。モノテイスは家で見本を塗ったからまあいいや。東北大のアンモナイト拓をやり損ねたのが今回の一番の後悔。そうこうしているうちに講演が始まり、聞きに行かせてもらった。ほぼ最初から聞くことができた。年表とかの



基礎知識が全然ないので、ものしりブックを参照しながら聞くと理解しやすかった。内容はかなり専門的だが解説はわかりやすい。難しいことをわかりやすくは大変だなあとつくづく思う。食べていたものや、魚竜は胎生だったことが化石からわかった話が特におもしろかった。講演後の質疑応答も熱かった。

後半は魚竜そのものの質問よりも観光資源として活用したいという質問になった。地元の人々の気持ちもわかるが、研究者にそれを聞くのはちょっと厳しいなあと思っていると団長がうまくフォローしていた。研究者・成果と一般の人々をつなぐにはやはり博物館などの役割は大きい。ハコモノではなく生きたモノを作っていくには、復興と地域振興とどうやってかみ合わせていくのか、現場の（そして大きく言えば日本の）課題だろう。と、なんだかんだであまりしおりブースに居ることなく終わってしまった。最初からブースにいた東北大生には大変申し訳なかった。（結果的に鍛え上げることができたが。）撤収は早かった。集合写真を撮り、トリちゃんたちが荷物を宅急便に出しに行き解散。

打ち上げと感想

打ち上げは宿舍近くのお店。ボリウムたつぷりでおいしかった。終了後に振り返りの時間を設けることができなかったので順番に反省点・改善点を言う。各自、いろいろ反省したいことはあるだろうし、私自身、至らない部分もたくさんあったし、しおりブース

ごめんなさいと思っているけれど、全体としては大成成功だったと思う。お客さんは139名で、これだけの人が来ると、不測の事態やもつとこうしたほうが...ということもあつて当然。そうした点は次回に生かすことにして、イベント開催自体も危ぶまれる悪天候やそれによるスタッフの欠落を全体でうまくカバーできていたこと、お客さんの満足度が高そうだったこと、そしてスタッフも得るものがあり楽しめたことは（目画自賛を差し引いても）大いに評価できるんじゃないかな。巷にリーダー論はいろいろあるけれど、こんなに身近にお手本がいるじゃないかと「今回は私がやりたいことを全部やってみたよ」と楽しそうに飲んだくれている団長を見て思った。それとちゃんとしたリーダーなら駒でいるのってすごくラク♪ってことも実感した。お開きになって外に出たら道路も積雪もすっかり凍っていて、また雪台戦が始まった。さすがに凍った雪は危険なので加わらなかつたが。（そこは大人でした。笑）2次会は宿舍の一室で蜘蛛仙人が持ち込んだどぶろくやママシ酒であやしき満点（笑）差し入れの地酒をおいしくいただき、私は早めに引き上げたがまだまだ宴会は続いたようだった。

2月17日 後夜祭・オマケ

出発前に町役場横の図書館に行っていた玉置さんから電話。月曜で休館日だったが開けてくれたそうだ。みんなで行ってみる。（団長は最後まで宿泊者の帰りの交通手段などの

確認をしていた。ホントお疲れ様です。）最後に宿舍を出たのはホネ団メンバー9名だった。日中に見る仮設住宅はさらに重く、思わず避けるように通ってしまった。平日の午前中だから静まりかえっている。そういえば何度か前を通っているが人を見ていない。役場・図書館は仮設のすぐ横だった。小さな小さな図書館の奥に、魚竜館からレスキューされた標本が展示されている。昨日の講演を思い出しながら解説パネルを見た。図書館には古生物コーナーも設けてあつた。展示や本を見ながら何となくみんなまつたり。そろそろ出発しようという頃に、先に宿舍を出発していた中島先生一行がやってきた。標本の型取りをするらしい。ガラスケースの化石が取り出され、助手の人たちが樹脂を練り練り。町の担当者も来ていて、展示ケースの下の引き出しをご開帳。私たちもちゃっかり便乗してアンモの化石などを見せてもらった。型取りを見学しながら、いろいろ質問もした。



お土産購入と昼食に魚屋さん(?)へ。みんないろいろ買っていたが、私は仙台にあと2泊するし...(余分に休みを取っていた)と思うと冷凍・冷蔵物には触手が動かず乾物ハンターに。お昼も同じ店の食堂で。海鮮丼うまかった。カキフライも頼んでみんなでシェア。満腹。図書館でスペシャルなおまけが付いたので、さんさん商店街には行く時間がなかつた。ここで財布の紐が緩んでしまった私は仙台に戻ってからお土産バカ買い。南三陸にはお金を落とし損ねた。(笑) 帰りの車中



からの風景。山にも津波が押し寄せてきたようで(樹種はわからなかつたが)針葉樹林は一定の標高まで木がない。残った林が間伐されたのは見るからに震災後。がれき処理のついでだろうか。仕事柄(と言つても最近はずランティアとの境界がかなり曖昧)京都の間伐遅れの針葉樹林(人工林)は見ているがここも線香林。せめて震災の5年前にでも間伐されていれば少しでも減災に...でも津波の威力はどれほど...あ、海岸林ではなかつた...塩害は?...またまた「日本の現状」を見せつけられた気になり答えのない思考に埋もれる。海側に目を向けると海鳥がいる。団長の提案でバードウォッチングに。天気は良かったが海風は冷たい。山にはよく行くが海は本当に久しぶりだ。波間に浮かぶ鳥たちを眺める。トリちゃんはさすがに詳しい。鳥の日にはできるだけ参加しているが鳥の名前も全然知らないし、もつとわかるようになりたいなあ、いつも思うがなかなか。ここで仙台駅組と空港直行組は別ルートで仙台へ。



記録的大雪のせいでハブニング続出だった。楽しい遠征だった。遠征・現地には行くこととはないだろうと思っていたが行ってよかった。社会復帰は困難だったが。



日本画&漆 山田 明子  
このホネホネ委員会  
不図に11月29日  
おかげで  
たのしかったよ

三平がまきまき  
がいのぼら

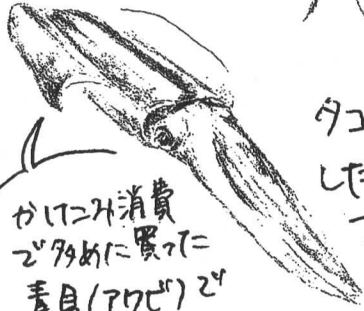
# マリンピア松島

2/18  
(火)

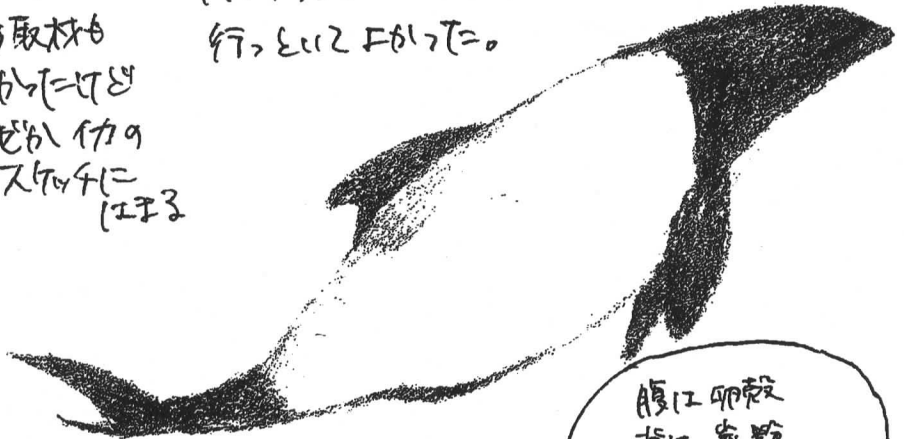
平日だからか あっさりいって  
後で調べたら 来春で閉鎖(移転)らしい。  
全く予定してなかった (ホテルに置いてある  
パンが見て行って) けど  
行っていいところ。



タコや取柄も  
しつこいけど  
たてかイカや  
スルメに  
はいる



かいてみ消費  
で79円に買った  
青貝(アワビ)の  
ラベン(にしよ)か(か)

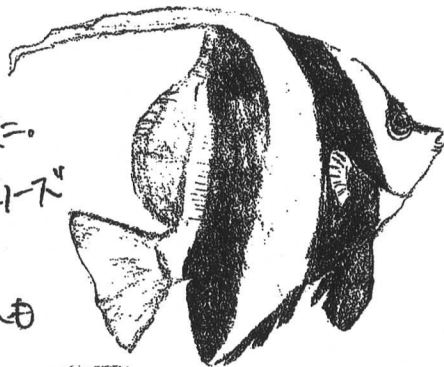


水槽前 で手を振ると  
来られる。お喋りしていいの  
が、いふん遊んでる、  
踊る阿呆でございす。

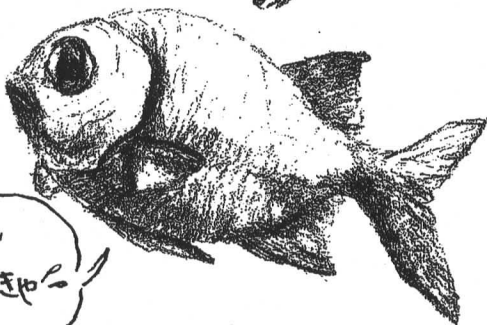
腹は卵殻  
背は炭粉  
手はげ(じ)は金で  
高群絵(にしよ)



たこさん  
写真も撮った。  
今年は海31下  
群絵に  
なるかも



お目当ては  
イワトビエ  
群絵の取柄  
下地の塗り足  
絡わってはい



たこさん  
塗り足は



山田あき

# 八木山ZOO again

2/19 (水)

15日は雪で園内見れなかったの2度 帰る前にもう一度  
行き来した。仙台駅からバスで30分くらい(笑)

職員さんに案内して  
もらいました。

ちなみに16日も雪で閉園  
したとどうです。

ストラトラーのバグヤード  
檻があるとはいえ  
周近で  
大迫力



1日は皮を剥いてけど...  
今回の一番の自慢  
生き生きとした  
さわった。  
おやつもあげた!!

あと79コアラ79とヤウにも  
おやつあげてさわった!!

生き生き動物は  
あったかい。



雪景色のフミンゴとか  
シロウとかが奇抜な  
光景が見れた(笑)

シロウとレイサー1100は  
元気いっぱい。  
冬の動物園もいいな  
と思ってきました。

山田あき 八木山の山田さん、ありがどう  
ございました。またダブル山田で語り合ひましょう🐾

# ほね本紹介

## 「ときめき昆虫学」

著者 メレ山メレ子

出版社 イースト・プレス (2014/4/6)

ISBN 978-4781611730



私がメレ子さんに初めてお会いしたのは去年のはじめごろ、彼女が入団試験を受けに来られ(無事合格し) たとき。しかし、以前より彼女のブログ「メレンゲが腐るほど恋したい」(<http://merco.hatenadiary.com/>)の読者だったので一方的に知っており、アライグマと格闘している彼女を見つけたときには心の中で「生メレ子だ〜!」と叫んでいた。ミ〜ハーだなあ。



「メレンゲが腐るほど恋したい」(略して「メレ腐」)は、彼女が津々浦々旅行をしたときのステキ写真と、読者が現地を訪れた際に

「知ってて良かった!メレ山さんありがとう」と思うであろうきめ細やかな情報と、彼女が出会った何か変なものたちへの(ときには自分自身への)愛に満ちた「ツッコみ」で構成されている。私はその「ツッコみ」の部分にものすごく惹かれ、ブログを読むようになったのだ。(たしか読者になったのは、ベトナムで彼女が巨大ナナフシを頭にさせている記事を読んだから)。



「ときめき昆虫学」においても、虫への、あるいは「虫屋」「虫研究者」への「愛あるツッコみ」が炸裂している。それによって、今まで虫に対して抱いていたイメージや思い込みが、クルつと方向転換する感覚を味わうことができる。ああ、これが帯に書いてある「あなたの中に眠る『虫スイッチ』」なのかなあ。見事に押されちゃったなあ。メレ子さんが紹介してくれているのは、遠くてたどりつけない場所にいる美しい虫ではなく、我々の生活のすぐ近く、ベランダや裏山やちよつとバスに乗れば会いに行くことができる虫だ。「虫スイッチ」を押されたら、明日にでもクマムシやダンゴムシやアリを探しに行こう!脊椎動物の死体ばかり探している場合ではないぞ!



各章とびらでは昆虫をモチーフにした作品とメレ子さんのコラボ写真も楽しめる。フェルト作品や、アクセサリーや、彫刻などなど。どれもステキな作品ばかり。そして、何と!ビックリ!手前味噌ですが私の切り絵作品も

「ゴキブリ」の章に載せていただいております。ホネ神様のお導き…?(ところで、果たして昆虫の本は「ほね本」なのでしょう。一応、外「骨格」生物なのでセーフなのかな。ですよね。あと、何よりホネホネ団員が書いた本だし)。



そして、(以下、昆虫大学2014 in アクアマリンふくしま Twitter公式アカウントプロフィールより引用) ———— 2014年7月5日(土)〜9月15日(月・祝)、学び舎を持たぬ新感覚昆虫イベント「昆虫大学」がいわき市の水族館アクアマリンふくしまを虫で埋めつくします。週末中心にワークショップや展示、最後の3連休は講演や物販目白押し!の昆虫大学祭をやります。——— というメレ子さん主催のイベントも開催される予定です!これは…!行かねば!

いわたまいこ



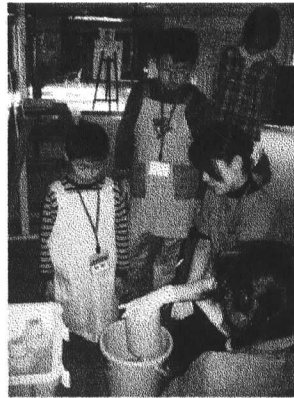
# 4. 骨を漂白する

皮と肉がだいたい取り除けたら、重曹を入れたお湯で表面の肉の色が変わるくらい、さっとゆでる。その後は、魚の骨抜きを使って残っている肉や腱(けん)を取り除く。でも、腱を取りすぎると骨がばらばらになるし、指やツメを無くさないようにしないとけないし…

お腹が空いてきたけど作業に集中!

そして、肉や腱を取ったら1時間ほどパイプ洗浄剤※1につけて、取り切れなかった肉を溶かす。その時、どれが自分の骨かわかるように、生ゴミ用の水切りネットに手羽先とラミネート加工した名札を入れるのを忘れずに。

つけ込みが終わるまでの間に、みんなは、お昼ご飯♪



ごはんを食べ終わったら、パイプ洗浄剤につけていた手羽先を流水でよく洗って、パイプ洗浄剤を洗い流す。

その後、指先や関節に残っている肉や腱を骨抜きで取り除き、再び名札と一緒に生ゴミネットへ。

そして、標本を白くするために、過酸化水素水※2の中へ。さあ、できあがりまでもう少し!!

※1パイプ洗浄剤(次亜塩素酸+水酸化ナトリウム)  
※2過酸化水素水(オキシドールの原液、濃度は約30%)  
※1、※2とも、とても強い薬剤です。今回、使用する時にも、それぞれ希釈して使用しました。もし、おうちで標本を作る際に使用する場合は、しっかり換気をして、直接手で触れることが無いように十分に気をつけて下さい。

# 本を作ろう! 5. できあがり♪

## 活動報告書

日時:2013年12月15日  
生命と環境の学習館



過酸化水素水で骨を漂白している間に、骨を飾る板を準備。

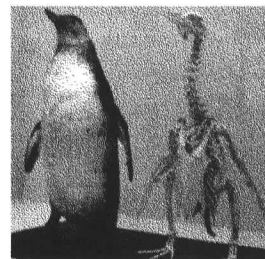
骨を針金で固定するためにキリで穴を空けて、流水でよく洗って漂白剤を落とした骨の水分をふいたら、針金で板に固定して…

手羽先の骨格標本のできあがり!!  
もちろん、手羽先がトリのどの部分なのか図で確認したり、色を塗ったりしたので、指の数もバッチリ!

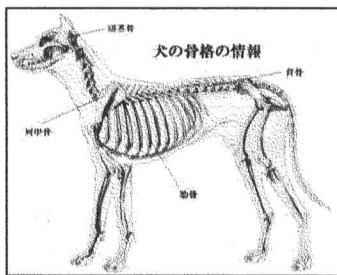
みんな、1日お疲れ様でした♪

# 一番盛り上がったのは?!

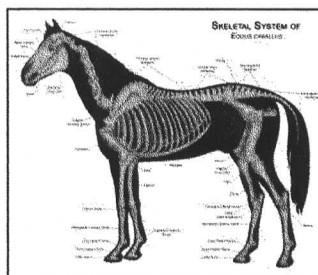
もちろん、漂白の間に実施したこのコーナー!  
この動物、人がマネするとどんな格好になるでしょう?  
手首や足首の位置に気をつけて…みんな、できるかな?



【ペンギン】



【イヌ】



【ウマ】



【カラス】

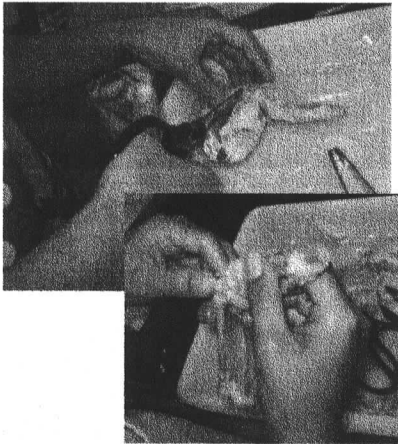
い?  
く取り除いても取り切れなかった腱があり

さんの周りにきな虫もいま除屋さんです。(おうちにシムシ) 大事なモノには、標本と一緒に入れ



生命と環境の学習館 ウィンタースクール 2013

## 2.肉と皮を取る



まずは、自分の手羽先が、右か左かを確認。キッチンばさみで皮に切り込みを入れ、骨を切ったり関節を外したりしない様に気をつけながら皮と肉(筋肉)を外す。

途中まではホネも太いので作業はしやすいけど、「く」の字に曲がった先は、人間の指に当たる部分。細いし、小さいし、とっても大変…

作業中に出た一言。「食べた方が、絶対に早くてキレイにできる！(そして、美味しい!)」



## 3.肉を溶かす



## 1.「標本」とは?!

「標本」って知っている?

そう聞かれて、ちょっと考えた

子どもたちからは、「昆虫」「石」「貝殻」などが出てくる。みんなが答えたものは、すべて「標本」として集められるもの。そして他にも、「鉱物」や「植物」もあるし、みんなが知っている「恐竜の化石」を初めとした「化石」だって立派な標本だ。

それから、もう一つ。死んでしまった野生や動物園の動物たちをホネと毛皮を標本として残す博物館もある。

今回は、お肉屋さんで売っているニワトリの手羽先をつかって、骨格標本作りにチャレンジ!!



## ウィンタースクール2013 手羽先で骨格標



## なぜ?なに?どうして?!

Q.骨格標本を作る時、最後に骨から血がたくさん出てきたのはどうして?

A.私たちが食べている鶏肉は、通常「と殺」した後に血抜きをしています。その方が食べる時に美味しいから。ホネから出てきた血は、ホネの中で作られた新しい血です。ホネは「骨膜(こつまく)」という膜でおおわれていますが、これがお湯や薬品で処理をしているうちにはがれて、中からじわじわと血が出てきたのだと思います。気になるようなら、氷水に一晩浸けておくと残っている血が出てきます。

Q.なぜ、鶏の手羽先は指が3本なの?

A.鳥は恐竜の中の獣脚類(ティラノサウルスやヴェロキラプトルもこのなかま)が、今の地球に生き残ったという説が有力です。この恐竜たちの前足の指は、親指、人差し指、中指の3本の場合が多いのです。2011年まで、「鳥の指は人差し指、中指、薬指であり、恐竜の子孫ではない」という説と対立していました。東北大学の田村さんが、指を作る細胞の位置関係をニワトリの胚で調べたところ、恐竜と同じだと証明できたそうです。なので、今では、親指、人差し指、中指が起源であるご先祖さま(恐竜)の特徴が、鳥にも受け継がれている証拠と考えられています。

Q.作った標本の保管はどうすればいい?

A.今回は、お肉や腱、脂肪をなるべく作りましたが、関節などにどうしてかかった部分や、接着剤の代わりに残ります。

薬品で処理をしていますが、みなは、その残っているお肉や腱が大好き。通常、「分解者」と呼ばれる掃が、あまり好まれない虫でもありまくるのは、主にゴキブリや、カツオブそこで、大事な標本(と、近くにある)が食べられないようにするために入るくらいのタッパーなどに乾燥剤で、しっかりとフタをおくとよいです。

# 活動報告

## 鳥剥き会の感想

はじめまして、去年の11月に入団しました新米団員の川森日向です。さて、今年の2月に行われたバードレスキュー

協会の仮剥製製作者養成講座に参加してきました。講師は、ぼくもはいつているあくあびあ芥川の鳥類標本作成チーム「鳥剥団」の団長、高田みちよさんです。

ホネ団とは違い計測から自分でやるので今まで曖昧だった計測の仕方もしっかり頭に入れることができて勉強になりました。高田さんの模範演技が終わるといよいよ実践です。

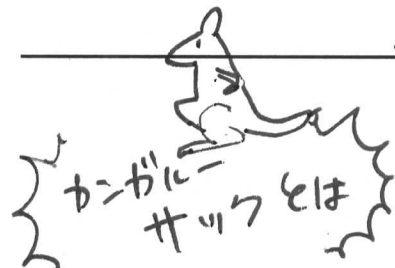
ぼくが担当したのはクロジのオス??だけどもんか頭が変な感じ。慎重に...やったつもりですがカンガルーサックが上手につくれず...無念。頭にかかろうとすると首を何かにやられたようで大きな穴が...最初の変な感じはこれだったようです。頭を返そうとしても「ピリッ、ピリッ」と皮が破れていきます。これ

は頭を返すことができません干物になって頂きました。干物になったクロジはなんだかかわいそうで申し訳ない感じでした。

するとバードレスキューの方が「ウソ剥いてもええで。」と言ってくれました。ウソツク??とても綺麗なウソ雄です。ということでお言葉に甘えてウソを剥かしてもらえました。かなり身がズグズグで皮がとても薄かったです。カンガルーサックは少し浅かったですが、何とか作ることができました。ウソの面白かったことは舌の丸さです。なんだか円の半分形の形に似ているなあ。後、ウソの舌を

欲しがる人が多くてやっぱウソの舌は面白いやなあと思えました。まだまだ下手くそですが練習してうまくなりたいです。

甲陽園小学校五年川森日向



仕上がりが美くなるよう、また皮に負荷をかけないように、ごくごく小さいセキシヤも保ち仮剥作業をすすめること、また、その状態。



50円かな...

ホネホネ団 ホームページアドレス  
<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>

- 主なコンテンツ
- ホネホネ団とは
  - 入団・見学について
  - ホネホネ団通信バックナンバー
  - 死体に出会ったら
  - 団員の個人ページ紹介
  - 関連グッズ紹介
  - 東北遠征団



# 私物 標本

ホネホネ団には私物の標本を所有している方が多数いると思われます。拾ったホネや、組み立てたりもらったホネ、ホネにする予定の死体など。さまざまな私物標本も紹介していきたいと思います。

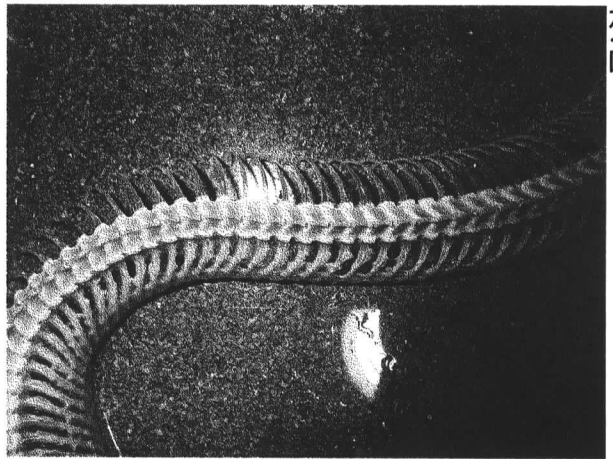
## ビギナーズラックは一度だけ

ありがたい事に、『好きに使ってもいいよ。』と亡骸の提供を受ける事があります。『好きに』と言われてもそこはやはり大事なこと。『好きに』とやらせても、出来るだけがんばって少しでも見れるモノに仕上げ、「こうなりました!」と報告するのですが、先日とうとう報告したくないむごい出来の骨を仕上げました。その残念な事になってしまった子は「へび」。



実はこれ以前に初めてのへびの骨格標本に挑戦した時には、突っ込みどころは多々あるもののぱっと見だけならそれなりに見れる代物が出来たのです。へび骨作成の難関といえどなんとといっても大量の肋骨。他の動物の作成時にも（僕は特に小型の生き物ばかりを扱っている）肋骨がバラけてしまったりと困っていたので、肋骨にかかる肉を薄く残してみた所、とても作業がしやすく仕上

左：図1



がりも良いものになり、初めてのへびの時にもその方法をとりました（とはいえ1m越えの肋骨範囲を薄皮一枚分だけ肉を残すのは大変だったので、実験も込めて半身だけ肉を残し半身は綺麗に肉を取ってみました。結果は上々！（参考画像図1及び図2）

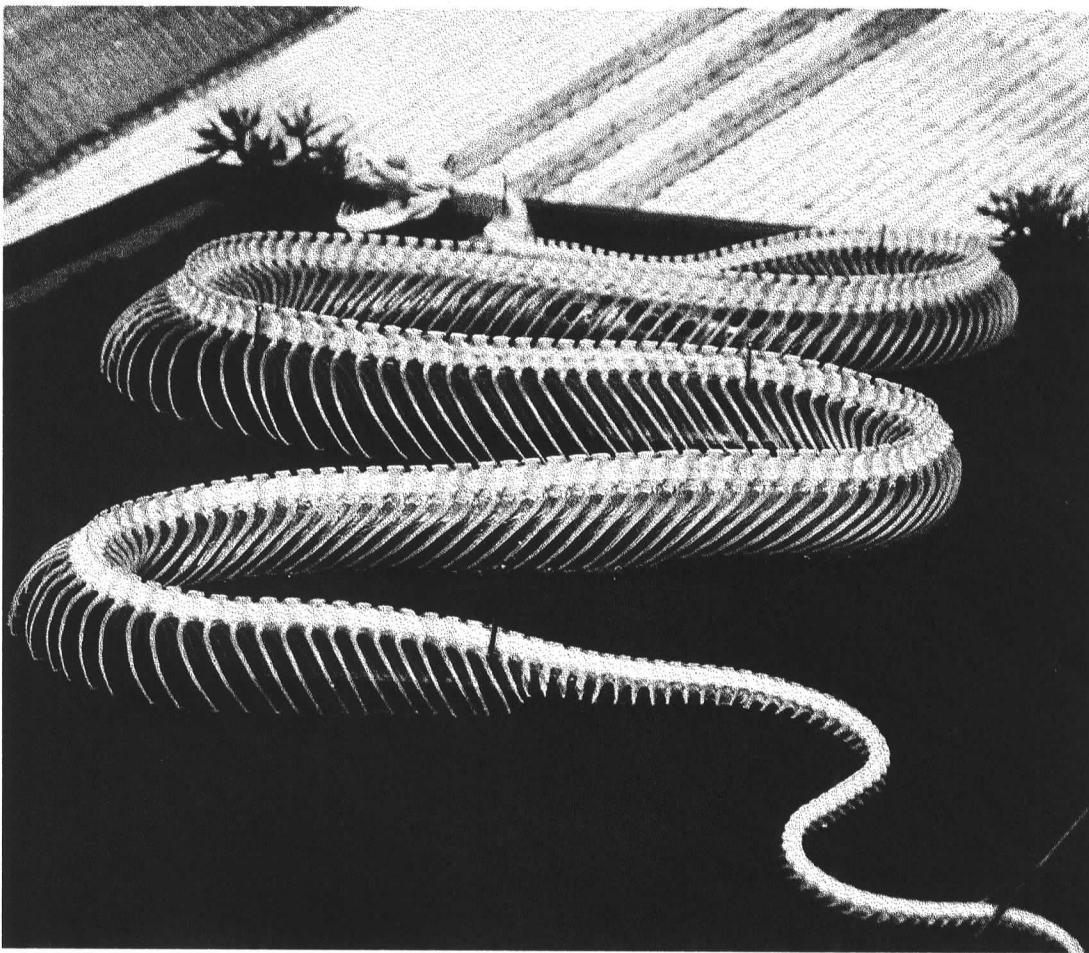


さて、またへびをいただける機会を得、前回除肉にかなりの日数が掛かってしまったのでなにか時短の工夫をせねばと考えて、うーんと薄めたパイプ洗浄液（水500ミリの割合）に対してパイプ10ニッシュ（10ミリの割合）につけてみました。結果としては一長一短：いや一長二短？いやいやもっと一杯短!?前回取り切れなかった髓こそすっきり綺麗になりはしたが、薄く残したかった肉は扱いにくいゼラチン様にクニクニと曲がり硬くなり微

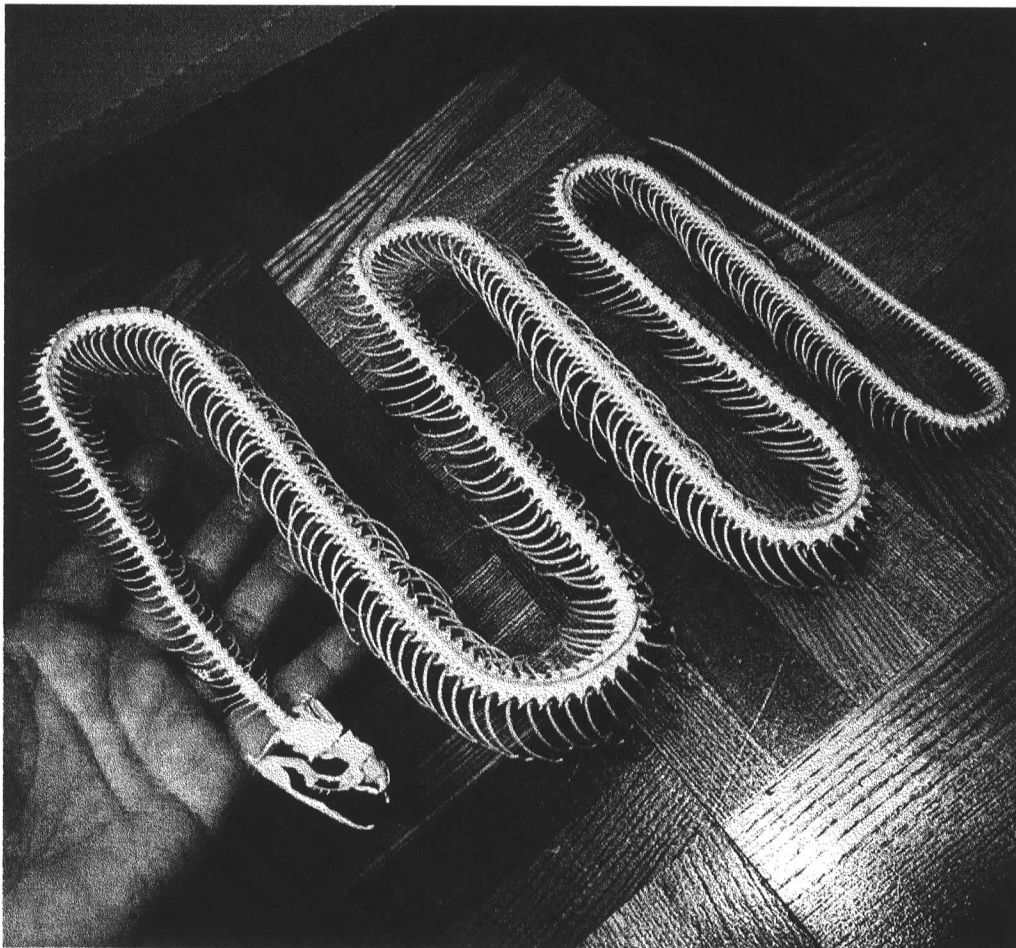
妙な加工が出来なくなった為に全て除去せざるをえなくなり（しかも取り難い）、デリケートな頭部はさらに脆くなり、前はオキシドールで綺麗に出来たはずの漂白が抜け切らなかつたり、時短になるといよりは早く切り

上げないと取り返しがつかないので急がざるを得ない結果となりました。さらに、乾燥させようとした方がいいが用意してたパネルが大きすぎるものと小さすぎるものしかなく、小さい方に無理やり収めるポーズをとらせた為

右：図2



右:図3



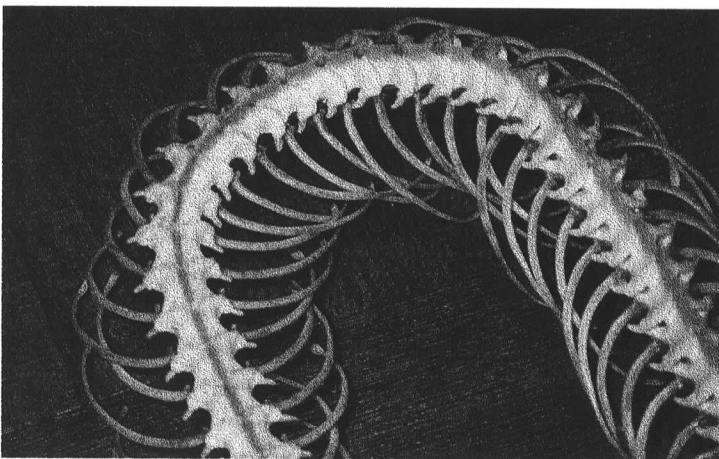
にただでさえ厄介な整形が余計難しくなり、霧吹きをかけたつ作業していたものの整えていない部分が乾きだしてどんどん修正がきかなくなったり、それはそれはもうへびちゃんに対して平謝りするしかない出来ない状態で気力切れを起こして終了となってしまいました

た。(参考画像図3及び図4)



初めての挑戦時と比べてここまでひどい出来になるなど思いもみませんでしたよトホホ。とりあえずパイプ洗浄剤は手羽先レベルのごつつい相手にしか使っちゃダメです

右:図4



(あくまで個人の感想です)。入れ歯洗浄剤様ボ○デント様様です！次の作成時どうか宜しくお願いします！タ○デントは使った事が無いですがごめんなさい。乾燥整形時も、あるもので済まそうなどと考えず、次からは足りない道具はダツシユで買出しに行くか崩壊しませんようにと祈りながら骨を水風呂に戻します！だから：だからどうか次の機会に恵まれた際には上手く仕上げられますよう見守っていてください骨神様！見捨てないでくださいまし！

・冷蔵庫の主・ノ

博物館の楽しみはホネだけじゃない!!

# 友の会に入ろう

ナイトミュージアム

観察会

バックヤードツアー  
合宿!!

鳥の骨のついでに  
島によく行くぞ!!



会員限定の行事も  
たくさん!!  
入って損なし!



1年間3000円で  
家族全員  
楽しめます!!





時間：10時～24時半  
 担当：団長、事務局長

参加者数：28名(見学者15名 ↓新人団3名)  
 内容：ヌートリア1体、ネコ1体、タヌキ1体、アナグマ1体、テン1体、ニホンイタチ3体、チョウセンイタチ28体の皮剥き。イタチ祭り2014。



2月10日  
 場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
 時間：10時～21時半  
 担当：事務局長

参加者数：6名(見学者2名 ↓新人団なし)  
 内容：ウズラ1体、マガモ1体、カルガモ1体、オオコノハズク1体、ハシブトガラス1体、ノゴマ1体、キビタキ1体、スズメ1体、イタチ1体の皮剥き。鳥の日。



3月8日  
 場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
 時間：10時～23時半  
 担当：副団長、事務局長

参加者数：12名(見学者0名 ↓新人団なし)  
 内容：マガモ2体、ドバト1体、ハイイロウミツバメ1体、カワウ1体、ダイサギ1体、コサギ1体、オオセグロカモメ1体、カワセミ1体、ハシボソガラス1体、ハシブトガラス1体、ムクドリ1体、アカハラ1体、クロジ1体の皮剥き。鳥の日。



3月30日  
 場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～18時45分  
 担当：団長、事務局長

参加者数：42名(見学者21名 ↓新人団4名)  
 内容：カモシカ1体、ニホンジカ1体、イノシシ1体、タヌキ5体の皮剥き。ハクビシン1体、アナグマ1体の肉取り。久しぶりに大所帯。とにかく見学が多かった。春休みだから？



4月27日  
 場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
 時間：10時～21時半  
 担当：団長、事務局長

参加者数：47名(見学者19名 ↓新人団2名)  
 内容：オオカンガル1体、キツネ1体、タヌキ2体、アナグマ2体、イタチ3体の皮剥き。ニホンジカ1体、カリフォルニアアシカ1体、タヌキ1体、アナグマ1体の骨洗い。カンガルーの日



4月28日  
 場所：大阪市立自然史博物館 実習室  
 時間：10時～20時  
 担当：事務局長

参加者数：13名(見学者4名 ↓新人団なし)  
 内容：オオハム1体、カワウ1体、ウミネコ3体、オオセグロカモメ1体、サシバ1体、スズメ1体、イカル1体、ホオジロ1体の皮剥き。鳥の日。

**広告**

— 好評発売中！ —  
 『猫にもできる豚足くん』

乾公正 著  
 2008年刊 12ページ  
 簡易製本 価格300円



かっこいい!

2011年1月～2011年4月に入団試験に合格した方々です。

# 新入団員紹介



- 団員 No.271 武内皓平さん
- 団員 No.273 宮越和美さん
- 団員 No.275 角谷晴世さん
- 団員 No.277 本庄 和さん
- 団員 No.279 側垣共生さん

- 団員 No.272 上村友久さん
- 団員 No.274 溝畑賀愛さん
- 団員 No.276 小合美織さん
- 団員 No.278 楠井悠伽さん
- 団員 No.280 浜添 菜さん

お名前： 武内 皓平

今高校一年生で、学校で科学部の部長をしています。個人実験で骨格標本を作っていますが、もぐりウサギが限界だったので、もっと多彩な動物を経験したいと思い、入団させて頂きました。鳥類目の頭骨が大好きです。

お名前： 上村 友久

今春近大農学部に入學予定です。鳥類や哺乳類をはじめ野生生物全般が好きで、特に日本産オオカミに興味があります。今後ともよろしくお願いします。

今回は理科系・生物系の入団が多いかんじ。王道も

お名前： 宮越 和美

鳥屋です。今まで海鳥の資料提供でホネホネ団の功に貢献してきました。とうとう入団いたしました。普段、シヤコドリヒカメを見ているので、三重県から採集。よろしくお願ひします。

お名前： 溝畑 賀愛

動物の造形物を作っています。オオカミが特に好きです!! よろしくおねがいいたします。



お名前： 角谷 晴世

女子中学高校で教員をしています。両生類が大好きです。イモリ、エゾサンショウウオ、ウーパールーパーを飼っています。ゴリラやチンパンジーも大好きです。近頃、京都府動物園によく行っています。

あとよく洗剤いただきますよ。

お名前： 小合 美織

手先が不器用なので心配でしたが無事合格できてとても嬉しいです。色々な動物の解剖することとともに体のつくりなども学びたいです。頑張ります!!

お名前： 本生 栄  
 ヲカヅからゆねんせいにふります。本をよむこととハレスタ-もあるが、コシカ、大サエサ。ハレスタ-をカ、ていす。よろしくお願ひしす。


← 何と！  
 ホネ団初  
 足のホネを  
 折ったまま  
 入団試験  
 突破!!

お名前： 楠井 悠伽  
 手先が不器用なので、一番遅く  
 なりましたが、皮に穴を開けて  
 しまったりしたけど、無事合格できて  
 良かったです。  
 これから頑張ります!!

お名前： <sup>そばがき</sup> 側垣 共生  
 大阪市内で生物を教えています。  
 入団試験は貴重な(?)キツネがさせていた  
 だきました。ありがとうございます!!  
 虫・動物何でも好きです。透明標本、  
 昆虫標本等なんでもやります。元々虫屋で、  
 好きな虫はカメムシ類、ハチ類ですので、  
 カメムシ、ハチ見かけたらください。そば  
 よろしくお願ひします。



お名前： 汝添 梨  
 ためきをみました!!  
 現在高校3年です。  
 未熟者ですが、  
 よろしくお願ひ  
 いたします。




**ホネホネサミット 2014**  
 開催日：2014年10月12日(日)～13日(月・祝)

2003年より、「なにわホネホネ団」が大阪市立自然史博物館を舞台に活動を始めました。当初は、ほんの数名が細々と活動しているだけでしたが、現在では100名を超える大所帯になっています。「なにわホネホネ団」の主な活動内容は、博物館に集まった動物の死体を、博物館で保存するために標本化することです。その他に各地のイベントに出掛けて行って、動物の死体を標本として残すことの意義を普及し、こうした標本の製作活動の楽しさを広めようとしてきました。

「なにわホネホネ団」以外にも、日本各地の自然史系博物館や大学の周辺には、動物の死体を標本として保存しようと活動している方々がいます。日本各地にホネの魅力にとりつかれ、個人で骨格標本を作製している方がいます。こうした同好の士が一同に集まって、それぞれの技術を伝えあったり、さまざまな情報交換をしてみたいと考えました。

ホネホネサミットは、博物館や大学などを舞台に、公の財産としてのホネの標本づくりをしている団体や個人の交流が大きな目的です。その他にも、さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている者同士が交流できればと考えています。

また、イベントとして一般の方々にも来ていただき、ホネの魅力や動物の死体を標本として残すことの意義を多くの人に知ってもらおう機会にもしたいと考えています。

それぞれが作ったホネの標本を展示したり、活動内容を紹介したり、皮むきや骨取り技術の交換をしたりして、楽しく盛り上がり、意義あるイベントにしましょう。

今までに2009年と2011年の2回、ホネホネサミットを開催し、その中で、ホネの情報交換のネットワークホネネットが立ち上がりました。このイベントが、今後さらに各地のホネの標本製作集団の活動を活性化させるきっかけになればと思っています。

# 広告

— 好評発売中！ —

## 『獣の標本作成ガイド 解剖編』

～道ばたから収蔵庫まで～

団長 西澤真樹子 著

2005 年刊 37 ページ

簡易製本 価格 250 円



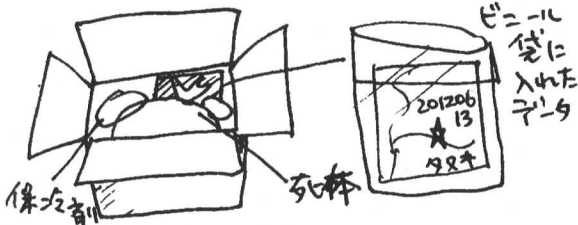
### なにわホネホネ団からのお願い

死体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいにくるんでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。

送ったり、持ち込んだりするときには、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いたメモを同封することを忘れなく！

#### お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>  
 動物研究室 和田学芸員  
[wadat@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:wadat@mus-nh.city.osaka.jp)



# ホネホネサミット 2014 開催決定！！

10月12日(日)～13日(月・祝)

[11日には出展者向けのイベントを予定]

於 大阪市立自然史博物館

のんきに編集後記など書いている場合にはありません。大ニュースです！

## 編集後記

記事募集

ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持っていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関すること全般ですが、例えば：活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見た行った、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。

本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！

他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願いいたします。

「」承くたやこ

作成の手間を省くために原稿の校正を編集が勝手にしています。大幅変更は投稿者に確認しますが、内容が変わらない程度であれば通知しないことがあります。

ホネホネ団通信編集 佐竹敦司  
[gcd03100@mifty.ne.jp](mailto:gcd03100@mifty.ne.jp)

刮目して待て！